

平成28年9月

松岡佑樹 学位論文審査要旨

主 査 辻 谷 俊 一
副主査 中 村 廣 繁
同 梅 北 善 久

主論文

Cytoplasmic expression of maspin predicts unfavourable prognosis in patients with squamous cell carcinoma of the lung

(細胞質におけるマスピン発現は肺扁平上皮癌患者の予後不良を予測する)

(著者：松岡佑樹、高木雄三、野坂加苗、坂部友彦、春木朋広、荒木邦夫、谷口雄司、塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成28年 Histopathology 69巻 114頁～120頁

参考論文

1. Birt-Hogg-Dubé症候群に伴う繰り返す気胸の1例

(著者：松岡佑樹、足立洋心、目次裕之、徳島武、足立芳樹)

平成26年 胸部外科 67巻 946頁～949頁

2. Cytoplasmic maspin expression is a predictor of poor prognosis in patients with lung adenocarcinoma measuring <3 cm

(細胞質におけるマスピン発現は3 cm未満の肺腺癌患者に対する予後不良因子である)

(著者：高木雄三、松岡佑樹、塩見達志、野坂加苗、武田知加子、春木朋広、荒木邦夫、谷口雄司、中村廣繁、梅北善久)

平成27年 Histopathology 66巻 732頁～739頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺扁平上皮癌完全切除症例101例について、腫瘍細胞におけるマスピン発現及び細胞内局在を免疫組織化学的に評価し、臨床病理学的因子および予後との関連を後方視的に検討したものである。その結果、細胞質のみにマスピンが強発現している群は、原発巣の大きさ、リンパ節転移や胸膜浸潤の存在などと有意に相関し、無病生存期間及び原病生存期間において、独立した予後不良因子であることが示された。

本研究は新知見に富むものであり、その成果は肺癌研究に貢献するとともに学術水準を高めたものと認める。